NHK杯 第57回全日本選抜ボウリング選手権

5月17～19日
新狭山グランドボウル

男子 16歳の須田風海音選手が史上最年少V
女子 佐藤悠里選手が11年ぶり2度目の戴冠

▲男子選手権者の須田選手と女子選手権者の佐藤選手

新生JB((公財)JAPAN BOWLINGN)主催による初の全国大会となった『NHK杯第57回全日本選抜ボウリング選手権大会』は、出場資格を有する男子175名、女子99名が参加して熱戦が繰り広げられた。近年プロ、アマ問わず若い力の台頭が目覚ましいが、この大会でも、男子は16歳、高校2年生の須田風海音選手(群馬)が、大会最年少記録を更新して優勝すれば、女子はナショナルチームキャプテンの佐藤悠里選手(神奈川)が第47回大会以来10大会ぶり2度目の優勝を飾った。

◀3年前の悔し涙からうれし涙に「いろんな思いが込み上げてきて、でもあんなに涙が出るとは思いませんでした」と佐藤選手

男子優勝決定戦は高校生対決

予選(9G)、準々決勝(6G)、準決勝(6G)を経て上位4名が決勝に進んだ。

男子では、予選7G目に300を打った須田選手が、予選を2207の断トツの1位でクリアすると、そのポジションを譲ることなく、トータル4876の1位で決勝に進んだ。準々決勝、準決勝は須田選手を上回るペースだった福満亮選手(長崎)が40ピン差の2位、昨年初出場で決勝に進んだ浅海恒成選手(愛媛)が4708で3位、そして4位には、準決勝4G目の300が効果的だった佐野裕葵矢選手(山口)が4701で食い込んだ。

4人が1Gを投球し、上位2名が優勝決定戦に進出するエリミネーターは、3日前に27歳になった浅海選手が最年長、福満選手が20歳、須田選手が16歳、佐野選手は15歳という、ヤング対決となった。ほぼ横一線のまま9、10フレ勝負、なかでもいちばん後れを取っていた須田選手は「割れてもしょうがないと勝負に出た」アジャストが功を奏し、8フレからのターキーで1位で抜けた。そして再三の⑩ピンタップも手堅くスペアを拾った佐野選手が2位で勝ち上がった。

どちらが勝っても男子の史上最年少優勝という高校生対決は、互いにレーンへのアジャストに苦しみ一進一退の展開。佐野選手が6フレからのターキーで優勝に大きく前進したかと思われたが、7フレは薄めで②④⑤を残すと、カバーミスでオープン。逆転のチャンスが巡ってきた須田選手だが、「いろいろやっても⑦ピンが飛んでくれなかった」と183でフィニッシュ。スペアでほぼ勝ちの佐野選手の10フレは「ちょっと親指の抜けが早かったけど、スプリットになるとは…」と、ポケットに入ったものの、結果は④⑩を残すスプリット。カバーもならず、183: 180と3ピン差で須田選手が優勝を飾った。

▲10フレを先に投げ終えて相手の投球を待つ間「どんな結果でも受け止めようという心境だった」と須田選手

◀「どちらのレーンもつかみきれないままスタートして、最後までアジャストできなかった」と福満選手

◀2度目の出場で去年に続く4位の浅海選手「会場との相性がいいのかも。それにしても2回も決勝に残れたのは奇跡です」

◀高校1年生、15歳での準優勝という結果に「素直にうれしいけど、やっぱり悔しさの方が大きい」と佐野選手

須田選手のコメント

優勝決定戦のスタートはいい感じかなと思ったけど、すぐに変化してそこからわからなくなった。いろいろアジャストしつつも、佐野選手もピンが飛んでいなかったので、できるだけカウントダウンしないようにと思っていました。3月の全日本選手権では飛ばそう飛ばそうという意識が強すぎて、ポケットすらつけていなかった。今回は初心に帰りポケットをつくことを意識して投げていました。優勝の実感はないけど、素直にうれしいです。ものすごく緊張したけど、応援が力になりました。

ナショナル主将のプライド

予選、準決勝とトップを走っていたのは、今春高校を卒業したばかりの近藤眞桜選手(群馬)だったが、第52回大会の選手権者でもある菅野沙織選手(神奈川)が、準決勝前半686と伸ばし、トータル4515で逆転の1位、近藤選手は47ピン差の2位、歴代選手権者(第47回大会)であり、現ナショナルチームのキャプテンを務める佐藤選手が、予選の25位から巻き返して4374で3位、準々決勝で1353を叩いた石本恵梨奈選手(学連)が佐藤選手から7ピン差の4位で進んだ。

エリミネーターは、女子もスコアメイクに苦労していたが、ダブルスタートの佐藤選手が、7フレ⑩ピンをスペアミスでオープンを作ったが、8フレから2つ目のダブルで203とまとめ、1位で勝ち抜けた。10フレやや厚く入って④⑦⑩と割れ、絶体絶命のピンチの近藤選手だったが、見事なカバーで切り抜け、196の2位で進出した。菅野選手は「ゲームの真ん中でミスして運を手放してしまった」と、6フレの⑩ピンカバーミスを反省。また石本選手は6フレ「ポケットに行っての⑦⑩だったので、あれでリズムが狂ってしまった」と悔やんだ。

優勝決定戦は、ともにストライクスタートのあとスプリットでオープンと、同じような立ち上がりだったが、佐藤選手が3フレのストライクをフォースにつなげてリードを奪う。近藤選手は5フレから初のダブルのあと、7フレは厚めで④⑦⑩のスプリット。これは見事なカバーで執念を見せたが、同じ左レーンの9フレ、④⑦⑨と割れて力尽きた。佐藤選手は、120のロースコアで敗れた3年前の優勝決定戦が「今も夢に出てくる」そうだが、その悪夢を払拭する快勝で、2度目の選手権者に輝いた。

◀「小さい投げミスが、こういう大きな大会では致命傷になってしまう」と、金星にあと一歩だった近藤選手

◀「10フレはなんとしてもストライクを2個と思ったけど、ちょっと寄った分だけ内ミスになった」と菅野選手

佐藤選手のコメント

最初のエリミネーターからコンディションがかなり変化していた。大きく出すと割れるリスクが大きいと思ったので、走るボールに替えて、タイトなラインで攻めました。最近メカテクターを着けるようになってすごく調子がよかったし、立ちたくてもなかなか立てる舞台ではないので、この機会を逃さないようにと思って頑張りました。ナショナルチームのキャプテンとして、プレーの姿でみんなを引っ張っていきたいと思っていたので、その部分でもよかったなと思います。

◀これまでは入賞どまりだった石本選手「初めてエリミネーターまでいけたのはうれしかった」

●男子優勝決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
佐野裕葵矢	7 2	9 ◢	▶◀	9 ◢	9 ◢	▶◀	▶◀	▶◀	7 1	⑧ 1
	9	29	49	68	88	118	145	163	171	180
須田風海音	▶◀	9 ◢	9 –	⑧ ◢	8 ◢	9 ◢	▶◀	8 ◢	9 ◢	9 ◢ ▶◀
	20	39	48	66	85	105	125	144	163	183

●女子優勝決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
佐藤 悠里	▶◀	⑦ 2	▶◀	▶◀	▶◀	▶◀	9 ◢	9 ◢	9 ◢	▶◀ ▶◀ 9
	19	28	58	88	117	137	156	175	195	224
近藤 眞桜	▶◀	⑧ 1	▶◀	7 ◢	▶◀	▶◀	⑦ ◢	▶◀	⑦ 1	9 ◢ ▶◀
	19	28	48	68	95	115	135	153	161	181